

～家庭・地域・学校

みんなで思いやりのある西宮っ子を育てよう～

西宮市家庭教育振興市民会議は、1981年（昭和56年）に家庭の教育力の充実を支援することを目的として発足しました。そして1983年（昭和58年）には5つの実践目標を立て長年にわたって取り組んできましたが、子どもたちを取り巻く環境は大きく変わりました。そこで2011年（平成23年）新たに5つの実践目標を提唱しました。

思いやりのある西宮っ子を育てる5つの実践目標

- 育てよう 優しい心と がんばる力
- 声かけよう おはよう ありがとう ごめんなさい
- 見守ろう よその子 我が子 区別なく
- 習慣づけよう 早寝 早起き 朝ごはん
- 外に出よう 元気に遊んで 友だちいっぱい

「出来ることから、始めてみよう」

実践目標は5つありますが、まずは出来そうな目標から取り組んでみましょう。「私の家ではこれを」「我が地域ではこれがいい」「うちのPTAではこれを重点的に取り組もう」「そうだ職場でもこれを呼びかけよう」

そんなふう実践目標が活かされる場が広がっていくことを願っています。まずは大人が動き始めることです。

「大人が変われば、子どもも変わる」



西宮市家庭教育振興市民会議 議長 仲島 正教

教育サポーターとして、若手教師対象に「授業づくり」や「学級づくり」等のセミナーを開くかわら、講演活動は全国各地にわたり、年間200回を超える。若手教師パワーアップセミナー「元気が一番」塾 主宰。尼崎市教育委員会 教育委員。

思いやりのある西宮っ子を育てる 5つの実践目標リレーコラム

5つの実践目標について、家庭教育振興市民会議の委員や家庭教育関係者など5名の方にご自身の体験や思いを投稿していただきました。

育てよう 優しい心と がんばる力

— エココミュニティ活動を通して —

私は5年前から平木エココミュニティ会議の一員として活動しています。その活動のひとつとして「緑のカーテンづくり」があります。毎年5月に、小6の子どもたちと一緒に小学校の渡り廊下に植物を植えます。そして、毎日子どもたちが水遣りをしてながら植物の成長を見守ります。8月になり、子どもたちが大切に育ててきた植物が実りの時期を迎えると、子どもたちが野菜を収穫して料理する「エコクッキング」を行い、調理した野菜をとても美味しそうに食べています。私はこの一連の活動を通して、子どもたちに「最後まで継続してやりぬく力」や「命あるものを大切に作る心」が育まれることを願っています。

また、私が子育てやPTA活動、地域活動を通して一番感じていることは「人の優しさ」です。時々悩むこともありますが、活動を通して出会えたたくさんの人たちの優しさに支えてもらい感謝しています。これからも様々な活動を通して、私がたくさんの人からもらった優しさを地域の子どもたちに分けてあげたいと思います。

内田 宏美 (子育てネットワーク西宮)

「平木エココミュニティ会議」において広報を務める。また、子育て中の親の活動団体である「子育てネットワーク西宮」に所属。「子育てネットワーク西宮」は主に講座を主催。また、2ヶ月に一度配信している「ネット通信」は、公民館などで、閲覧できる。

声かけよう

おはよう ありがとう ごめんなさい

— 挨拶で 気づき 築く 間柄 —

「おはよう」我が家の朝はこの言葉で始まる。その声と表情から家族の体調を知ることができる。「いただきます」「ごちそうさま」からは「いつもありがとう」という気持ちを受け取ることができる。「ただいま」の声には、今日一日の様子が一番出るから、なるべく家で迎えてあげたいと思う。「おやすみ」は安心して眠れるよう、また翌日を穏やかな気持ちで迎えられよう、とても大切にしている言葉だ。このように家族で交わす日常の挨拶からは、気づくことがたくさんある。学校や地域でも同様に、互いに気づき合う間柄を作ることができれば素敵だと思う。

大人が良い手本となる例があった。子どもが小さい頃、住人がきちんと挨拶をするマンションに住んでいた。そこでは外部の人にも挨拶をする。すると子どもは自然に外でも挨拶するようになった。地域での挨拶や声かけは、良好な関係を築き、防犯の効果もある。

挨拶という小さな会話を習慣づけること。そこには様々な効用がちりばめられていると改めて感じる。

池田 知子 (西宮市PTA協議会)

「西宮市PTA協議会」において、市内80単位の公立幼稚園、小・中学校PTAをつなぎ、その活動を支援。学校教育・社会教育・家庭教育における子どもたちの環境をより良いものとするため、様々な取り組みを行っている。

見守ろう

よその子 我が子 区別なく

— 子どもたち自ら地域の方に「声かけ」を —

「地域で見守りを」とよく言われていますが、みなさんは地域でどのような見守りを行っておられますか。私たちの地域では、子どもたちから挨拶をしてもらうことが「見守り」に繋がると考えています。つまり「見守り」ではなく、「声かけ」なのです。地域の方が子どもたちの安全を「見守る」のではなく、子どもたちから地域の方に「声をかける」ことにより、地域の子どもたちが安全に暮らせるようにしているのです。子どもたちに気軽に声をかけてもらうためには、子どもたちと地域の方が信頼関係を築くことが必要です。短い期間では難しいことですが、長い時間をかけて子どもたちに「声かけ」が必要であることを伝えていくと、いつかは出来ると思っています。

地域の見守り活動は地域の様々な団体の協力がなければ出来ません。また地域ごとに特色も違いますので、自分たちの地域に合ったやり方や負担のないやり方で行うことが大切です。みなさんの地域でもぜひ「見守り」を通して、子どもたちに地域コミュニティの大切さを伝えていただければと思います。



森 郁子

(鳴尾東ふれあいまちづくりの会 代表)

鳴尾東の各種地域団体に属する人などの集まりである「鳴尾東ふれあいまちづくりの会～和(なごみ)～」において、子どもから高齢者そして障害者までがこのまちで幸せに暮らしていけるよう地域福祉活動に励んでいる。

習慣づけよう

早寝 早起き 朝ごはん

— 習慣形成の目的と意味について —

近年、実施されている「早寝、早起き、朝ごはん」運動は、基本的な生活習慣の重点課題です。その目的には ①社会の行動様式を獲得し、他者との関係を円滑にする(文化・社会適応)、②自律的な意思をもって、他者の手をかりずにひとりでものごとを独立して行う(自立)、③身体内部を整え、心身の調和的な成長・発達を遂げる(生命・健康維持)、があります。

早寝早起きについては、とくに憂慮すべきことが乳幼児の就寝時刻です。日本では、それが遅く、世界最悪とされています。これには昼寝(午睡)などによって、総時間を補うだけでよいものではなく、成長ホルモンの分泌が活発となる夜間での確保が重要となります。

朝ごはんを摂らないと体内での熱量が確保しにくいため、身体活動が鈍り、寒さ、立ちくらみやめまい、腹痛、身体のだるさを訴えたりします。一方で朝食を摂る子どもは、教科(知識)的な学力が高いと言われます。

基本的な生活習慣の形成は、倫理規範つまり社会的な生活習慣や道徳性など「こころの習慣」の基盤となっているのです。



西本 望

(武庫川女子大学 教授)

西宮市に育ち、現在は武庫川女子大学文学部教授として、「こども学特論」「家庭支援論」などの講義を担当。短期大学部、大学院文学研究科修士課程研究指導、大学院臨床教育学研究科博士課程研究指導を兼務。

外に出よう 元気に遊んで 友だちいっぱい

— 私が地域活動から学んだこと —

私は大学生時代から今まで、地域の子どもたちを中心とした数々のボランティア活動に取り組んできました。その経験を通して、子どもたちが外で遊ぶことの大切さを3点学びました。1点目は、子どもたちは遊びを通して人間関係を学び、他者の存在を知り、他人を思いやることが出来るようになるということです。2点目は、子どもたちの間には子どもたちのルールがあり、遊ぶためにはそのルールを守らなければいけないということです。3点目はいろいろな失敗はありますが、その失敗を通して創造力や観察力が育まれるということです。

地域活動に参画することにより、子どもたちが外で元気に遊ぶということは子どもたちが育つ過程において非常に大切であると学べたと同時に、自分自身も成長出来たことに感謝しています。みなさんもぜひ地域活動へ積極的に参画してみてください。



西村 牧子

(地域ボランティア団体
くれよん 副代表)

市内の大学生を中心とした「地域ボランティア団体くれよん」において、放課後子ども教室など、地域が主体となって実施されている様々な活動への協力を行っている。

講演会報告

子どものいのちが 輝くために

～ 性と命の大切さをどう伝えるか ～

家庭教育振興市民会議は、西宮市PTA協議会と共催で、11月29日(金)に西宮市勤労会館ホールにて、「命の大切さ」をテーマに家庭教育講演会を開催しました。ご講演して下さったのは、「マナ助産院 院長 永原 郁子先生」です。

講演会では「命の大切さ」だけでなく、性教育のことや思春期の子どもとの関わり方など、子育てについて広くお話していただきました。

命の誕生に立ち会う現場でお仕事をされ、ご自身も2児の母親でいらっしゃる永原先生から語られる「子どもに“生まれてきてくれてありがとう”と誕生の喜びを伝えてあげてください。」「大人は日ごろから元気の出る言葉をたくさん持っておき、子どもが自分を認めることが出来るような前向きな言葉がけをしてあげてください。」などといった言葉ひとつひとつに心が温まりました。

参加者のみなさんからも「命の大切さ、性の大切さを伝えていくことの大事さ、またそれを伝える言葉も大事なのだとわかりました。」「子どもが自分は大切にされている、愛されていると感じるためには、親が子どもの存在を肯定することが大切だということがよくわかりました。」「早く家に帰って子どもをギュっと思っています。」といった声があがっています。

みなさんも是非ご家庭で「命の大切さ」について考えてみてください。